

平成 20 年 5 月 16 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006-2008

課題番号：18720056

研究課題名 (和文) 中世仏教僧の詠歌における特質と思想・信仰基盤の研究

研究課題名 (英文) A study on the characteristics of Waka by Buddhism monks in medieval Japan

研究代表者

平野 多恵 (HIRANO TAE)

十文字学園女子大学短期大学部・文学部・准教授

研究者番号：60412996

研究成果の概要：

中世を代表する僧侶の一人である明恵の和歌の全体像を見極めた。『明恵上人伝記』所収の明恵詠の注釈を行い、申請者が従来行ってきた『明恵上人歌集』所収歌の研究と合わせて、明恵における詠歌と思想・信仰との関わりを総合的に明らかにした。あわせて、和歌に関する明恵の考えを示す発言を含む『明恵上人遺訓』の伝本研究を行い、その成立過程を分析した。

中世の寺院文化圏内で編まれた歌集『檜葉和歌集』『続門葉和歌集』『安撰和歌集』に注目し、これらの歌集に収められた釈教歌の内容や典拠を解明した。これによって、中世僧侶の釈教歌は、それぞれが所属する寺院の重んじる聖教をふまえて詠まれたものが多いという特徴が見出され、中世僧侶における詠歌と思想の具体的な関わりを明らかにし得た。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2006年度 | 1,100,000 | 0 | 1,100,000 |
| 2007年度 | 800,000 | 0 | 800,000 |
| 2008年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,500,000 | 180,000 | 2,680,000 |

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：

1. 研究開始当初の背景

中世文学は仏教から多大な影響を受けているが、文学表現と仏教思想・信仰の連関を本質的に論じた試みは少ない。申請者は従来、鎌倉初期の華嚴僧・明恵(1173—1232)とその周辺における文学的営為の研究に取り組み、その思想的著作を十分に理解した上で、特に明恵詠と仏教思想・信仰との関係を詳細に究明してきた。そのようななかで、中世に

における僧侶の文学活動に広く興味を持つようになった。と同時に、中世文学の本質を探るためには、僧侶による文学的行為の具体的な解明が必要であり、それによって、仏教と文学の関係を見極められると考えるようになった。

2. 研究の目的

本研究は、申請者が従来取り組んできた明恵研究を端緒として、対象をより広げ、中世仏教僧の詠歌表現の特質と、その詠歌表現の背後に横たわる思想と信仰の具体相を解明することを目的とする。僧侶によって詠まれた釈教歌の分析を通して、中世の仏教思想や信仰によって紡ぎ出された表現の特質を具体的に明らかにすると共に、中世文学における思想および信仰基盤の全体像を掘り起こすことを目指している。

3. 研究の方法

- (1) 明恵の和歌関連資料を網羅的に検討し、明恵の和歌の全体像を明らかにする。

- ①『明恵上人伝記』伝本研究をふまえての、『明恵上人伝記』所収歌の注釈。
- ②明恵の和歌観に関する発言を含む『梅尾明恵上人遺訓』の伝本研究と成立過程の解明
- ③明恵詠の全体像を見渡した上で、詠歌傾向の変遷を明らかにし、その独自性と特質を探る。さらに、明恵の和歌が後代に与えた影響を分析する。

- (2) 寺院文化圏で編まれた私撰集所収の釈教歌の分析・検討

- ①『檜葉和歌集』『続門葉和歌集』『安撰和歌集』に収められた釈教歌の注釈・分析、および詠歌典拠の解明
- ②勅撰集所収の釈教歌の分析、および詠歌典拠の解明

4. 研究成果

- (1) 『明恵上人伝記』所収の全和歌の注釈を行った。本文批判にのっとった正確な注釈を目指し、注釈作業の前提として『明恵上人伝記』主要伝本九本の本文を参照して校異をとり、現代語訳、語釈、考察を加え、参考文献を提示した。その成果を「『明恵上人伝記』所収和歌注釈（一）～（三）」（『十文字学園女子大学短期大学部研究紀要』第37～39集）として公表した。これによって、『明恵上人伝記』に収められた和歌を実証的に検討する基礎が作られた。

- (2) 『梅尾明恵上人遺訓』の伝本研究をふまえて、その成立過程を解明した。これまで、その伝本の複雑さ故に明らかにされてこなかった『梅尾明恵上人遺訓』の伝本の系統と成立過程を明らかにし、「『明恵上人遺訓』の成立」（『古代中世文学論考』第20集、2008）として公表した。これによって、『梅尾明恵上人遺訓』に収められた明恵の発言の妥当性を実証的に検討できるようになった。

- (3) 明恵の和歌を広く検討した上で、その詠歌傾向の変遷を追い、詠歌行為の全体像と後世への影響を分析してまとめた。その成果を「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第四回国際研究集会の第四部会において発表し、「なぜ明恵は和歌を詠んだか—中世僧侶における詠歌—」（阿部泰郎編、「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第四回国際研究集会報告書）として公表した。明恵の和歌の特質と後代への影響を探り得たことで、

僧侶による和歌の特質の一端が明らかになった。

- (4) 『檜葉和歌集』『続門葉和歌集』『安撰和歌集』所収の釈教歌のうち、経典に依拠する歌について、その典拠を調査したうえで大寺院の僧侶の思想的な基盤を検討した。その成果の一部を2007年和歌文学会五月例会において口頭発表し、さらに加筆・修正したうえで論文「寺院文化圏の釈教歌——『檜葉和歌集』を中心に——」（『国語国文』第77巻第8号、2008）として公表した。これらの分析によって、中世の僧侶が、それぞれの所属する寺院や宗派が重んじる経典を歌に詠む傾向があることがわかった。これらの分析によって、僧侶たちが経典の内容をどの程度詠歌に反映させているかも明らかになり、彼らの信仰と詠歌の関わりが具体的に実証できた。釈教歌の内容を深く理解し、典拠を分析するには、たいへんな手間と時間がかかるが、これらの分析を継続できれば、僧侶における和歌の特質が解明できる手応えはある。よって、今後も、上記の歌集の全体像を含め、寺院文化圏で成立した歌集について長期的に研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

- ① 平野多恵「なぜ明恵は和歌を詠んだか——中世僧侶における詠歌——」（「テキスト付置の解釈学的研究と教育」第四回国際研究集会報告書、阿部泰郎編「日本における宗教テキストの諸位相と統辞法」）、211-223頁、2009、査読無
- ② 平野多恵『明恵上人伝記』所収和歌注釈（三）（『十文字学園女子大学短期大学部紀要』39集、13-19頁、2008、査読有
- ③ 平野多恵「寺院文化圏の釈教歌——『檜葉和歌集』を中心に——」（『国語国文』第77巻第8号、13-45頁、2008、査読有
- ④ 平野多恵『明恵上人遺訓』の成立（『古代中世文学論考』第20集、297-338頁、2007、査読有

- ⑤ 平野多恵『明恵上人伝記』所収和歌注釈（二）（『十文字学園女子大学短期大学部紀要』38集、28-38頁、2007、査読有

- ⑥ 平野多恵『明恵上人伝記』所収和歌注釈（一）（『十文字学園女子大学短期大学部紀要』37集、72-84頁、2006、査読有

〔学会発表〕（計2件）

- ① 平野多恵「なぜ明恵は和歌を詠んだか——中世僧侶における詠歌——」（「テキスト付置の解釈学的研究と教育」第四回国際研究集会、2008年7月20日、名古屋大学
- ② 平野多恵「寺院文化圏の釈教歌——『檜葉集』『続門葉集』を中心に——」和歌分学会五月例会、2007年5月19日、学習院大学

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0件）

○取得状況（計 0件）

〔その他〕

6. 研究組織 (1) 研究代表者

平野 多恵 (HIRANO TAE)
十文字学園女子大学短期大学部
・文学部・准教授
研究者番号：60412996

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者